

var. *americanus* SCHULTES (北米・勸察加) var. *denticulatus* FASSETT n. v. (北米・勸察加・アムール・アリウシヤン) var. *papillatus* OHWI (日本) var. *grandiflorus* FASSETT n. v. (北米西部) var. *oreopolus* FASSETT (北米東部) 4) *S. obtusata* FASSETT n. sp. (支那四川省) 5) *S. roseus* MICHX var. *typicus* (北米東部) var. *perspectus* FASSETT n. v. (北米東部) var. *longipes* FASSETT (北米中部) var. *curvipes* FASSETT (北米西部) 6) *S. streptopoides* FRYE et RIGG var. *verus* (西比利亚東部) var. *brevipes* FASSETT (北米) var. *japonicus* FASSETT (日本) var. *atrocarpus* MATSUM. (日本) 7) *S. koreanus* OHWI (朝鮮) (大井次三郎)

孔憲武氏：支那産スズメノエンドウ屬 — H. W. KUNG : Notes on Chinese *Vicia* in Contr. Inst. Bot., National Academy of Peiping 3 (1935) 383—395.

著者の調べた支那産の *Vicia* の報告で十七種を記して居り、その内 *Vicia tetrantha*, *Vicia sinkiangensis* は新種である。十七種に對する檢索表と新種二つの圖版がある

金平亮三氏：増補改版臺灣樹木誌 (1936).

本書初版即ち大正七年に發行されたものに比して内容、挿圖共に著しく改良されて全く雲泥の相違がある。氏によれば臺灣に於ける最初の植物採集は R. FORTUNE (1854) であると云ふ。その後 C. WILFORD, R. SWINHOF, R. OLDHAM, W. GREGORY, J. B. STERRE, W. HANCOCK, C. FORD, G. PLAYFAIR, A. HENRY 等の採集があつた。日本領有に成つてから牧野、大渡、森、川上、小西、U. FAURIE の諸氏の調査があり、その後臺北に帝國大學が設立された。氏は臺灣を次の五帯に分けて居る。I 紅樹林帯 2 海岸林 3 農耕地帯 4 潤葉樹帯 5 針葉樹帯、各論はフモトヘゴに初まり、ヒメクサトベラに終る 879 種の文獻、解説、島内及び島外の分布を説明し、殆んど各頁毎に挿入された挿圖と共に臺灣樹木の調査には絶好の參考書である。此の書で改められた學名も相當ある。又改められるべき學名も少しあるが此れは意見の相異で當然かも知れない。此の中で發表された新種の記載が中途半端であるのと、知られて居た學名が相當脱落して居るのは残念である。(大井次三郎)

佐竹義輔氏：日本産マヲ屬植物 — Y. SATAKE, *Boehmeria Japonica*, in Joun. Fac. Sci., Imper. Univers. Tokyo, Sect. 3, Vol. 4, pp. 467—542, with 54 textfig., July 25, 1936.

著者の研究は東京帝國大學理學部植物學教室所藏の標本を基として行はれたもの